

## (5) カキシメジ松林型 (キシメジ科キシメジ属)

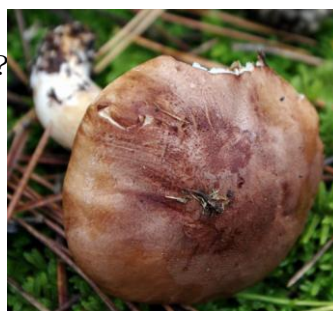
期 日：平成24年12月23日

場 所：虹ノ松原 (佐賀県唐津市)

昨年末に、最後の観察に行ってきました。この時期なので、あまり期待してなかったのですが、意外と多く生えてました。初めて、カキシメジを観察したので、来て良かったと思いました。観察したきのこは、フウセンタケの仲間 (多量)、キチチタケ、ニオイワチチタケ、ヒナノヒガサ (多量)、カキシメジ松林型 (多量)、アマタケ、マツカサキノコモドキ、ニセマツカサシメジ、ヌメリイグチ、カノシタ (1個体)、トキイロラッパタケ、シモコシ (1個体)、ハナビラダクリオキン (多量)、オオシワタケ、オウギタケ、ミズゴケノハナ？、チャハリタケ、オオキツネタケ、ケロウジ、マツカサタケの20種でした。クロマツ林だけあって、松かさに見えるマツカサタケ、マツカサキノコモドキ、ニセマツカサシメジの御三家をそろって観察できました。多く観察できたのは、カキシメジ松林型、シモフリヌメリガサ (フユヤマタケ)、フウセンタケの仲間



クロマツ林内のカキシメジ松林型



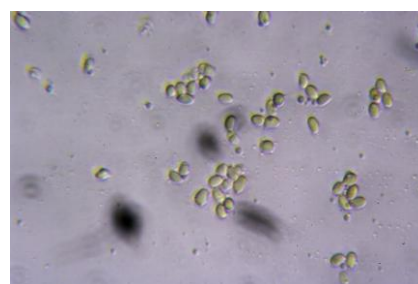
傘表面にあるささくれの跡



柄は中空か髄状

でした。フウセンタケの仲間は茶褐色で、傘中央が山のように盛り上がっているんですが、同定できませんでした。毒きのこのカキシメジは、誰も採らないので、たくさん残っていました。

カキシメジには、広葉樹林型と松林型があるようで、ここのは傘の色が濃いのでカキシメジ松林型のようにです。似たのにマツシメジがありますが、マツシメジの柄は中実で、傘に鱗片がないようで、虹ノ松原産のは、右上写真のように、柄が中空か髄状で、



胞子 (400倍の視野)

傘に鱗片があるので、マツシメジではないと思われます。ただ、ひだがカキシメジのようにあまり褐変しないものもあるので、細かく分ければ、いろいろなタイプのカキシメジがあるのかもしれません。

カキシメジ		マツシメジ
<ul style="list-style-type: none"> <li>・マツ林やナラなどの雑木林</li> <li>・傘中央が赤褐色～暗褐色で鱗片化</li> <li>・柄は<u>中空か髄状</u></li> <li>・<u>ひだに赤褐色のしみ</u>ができる</li> <li>・肉には弱い苦味と灰汁様臭いあり。傷口は徐々に褐色化。</li> <li>・胞子は楕円形～卵形, <math>5.5 \sim 6.5 \times 3.5 \sim 4.5 \mu\text{m}</math></li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・二針葉松林下</li> <li>・傘表面が<u>鱗片状をなさない</u></li> <li>・柄は<u>中実</u></li> <li>・<u>ひだはわずかに褐色化</u></li> <li>・<u>肉は変色性ほとんどなく、無味</u>で弱い菌臭あり。やや灰汁の匂いがあり</li> <li>・胞子は楕円形, <math>4.5 \sim 6.5 \times 3 \sim 4 \mu\text{m}</math></li> <li>・発生地は二針葉松林に限られる</li> </ul>
広葉樹林型	松林型	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・カサの色が薄い (黄褐色)</li> <li>・有毒</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カサの色が濃い (茶褐色)。</li> <li>・無毒？</li> <li>・苦い</li> <li>・ひだに茶色のシミがない</li> </ul>	

引用資料：「北陸のきのこ図鑑」, 「増強改訂 山溪カラー名鑑 日本きのこ」

「日本の毒きのこ」, ウィキペディア・フリー百科事典, 原色日本新菌類図鑑 I